



粒状 石灰窒素 とれ太郎

の使用時期・方法について



営農支援課 TAC
堀井 崇史

秋施用



稲わら腐熟目的
1反(10a)当り 20kg

秋施用がオススメ!
(春施用では元肥の調整が必要となります。)



1反(10a)当り
80~100kg

使用時期は、
稲刈り後~代かき前

粒状 石灰窒素 とれ太郎 併用の秋施用がオススメ!!

●使用方法

- ① 石灰窒素、とれ太郎同日施用。施用後、深く(15cm)鋤き込む。
- ② 石灰窒素の除草(休眠覚醒)効果を生かす場合、同日施用3週間後、深く(15cm)鋤き込む。

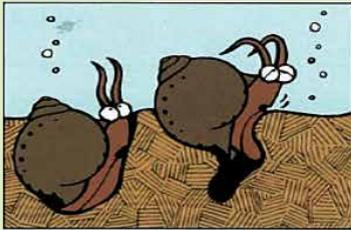
※休眠覚醒：石灰窒素の成分が「カルシウム」と「シアナミド」に分解されます。「シアナミド」が1年生雑草の種子に接触することにより、越冬前に出芽(休眠覚醒)し、寒さによる枯死が期待できます。

秋施用

粒状 石灰窒素 ジャンボタニシ防除

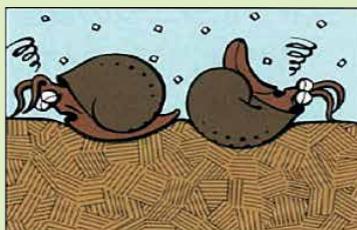
1

田んぼに水を張り、秋は1~4日、春は3~4日放置します。



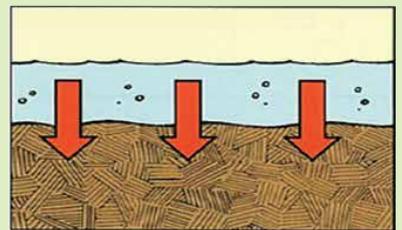
2

石灰窒素20~30kg/10aを散布し、3~4日放置します。



3

自然落水を待ちます。春施用なら3~4日後に代かきすると死滅。



※春施用の場合は元肥の窒素量の調整(減肥)が必要です。(目安4~6kg)
※春施用の場合は5日以上経ってから田植えしてください。

稲刈り後、湛水できない圃場では石灰窒素散布後、**ロータリー耕での碎土作業による殺菌(物理的効果)**がお勧めです。**稲わら腐熟**と同時に行えます。

作物	適用害虫名(雑草)	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
はくさい、キャベツ	根こぶ病	100~200kg/10a	播種前又は植付前	1回	散布後土壌混和
野菜類 豆類(種実)、いも類	センチュウ類	50~100kg/10a			は種前
	一年生雑草	50~70kg/10a			

ジャンボタニシ防除以外の農薬効果(一部抜粋)